

第 2 回浜田市総合振興計画審議会 会議録

日時 平成 27 年 5 月 21 日(木)

午後 2 時～午後 4 時

場所 浜田市役所（4 階）講堂

1 開会、会長あいさつ (午後 2 時)	
地域政策部 次長	本日は、お忙しいところをご出席頂きまして、誠にありがとうございます。 浜田商工会議所の岩谷委員、社会福祉協議会の大谷委員、J A の佐々木委員、J F の築谷委員さん、4 名が欠席のご連絡を頂いております。 出席委員は全員お集まりですので、会長に進行をお願いいたします。
会長	それでは、只今から第 2 回「浜田市総合振興計画審議会」を始めさせていただきます。 本日はお忙しいところご出席頂き、誠にありがとうございます。 前回は、4 月 30 日(木)に第 1 回審議会を開催しまして、総合振興計画の策定方針や、地方創生の総合戦略について、事務局から説明頂きました。 本日は、前回の説明を踏まえて、協議項目について意見交換を行う予定としております。 また、その前段で、「元気な浜田づくり市民委員会」の開催結果について、速報という形でご報告頂きます。 本日は午後 4 時終了を予定しておりますので、約 2 時間において委員の皆様 の忌憚りの無いご意見を頂きますよう、よろしくお願いします。 先ほど委員の出席状況は事務局から確認がありましたが、配付資料の確認をお願いします。 (事務局から配付資料を報告) それでは、議事進行をさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。
2 議題	
(1) 元気な浜田づくり市民委員会の開催結果について（速報）	
会長	まず、(1) 元気な浜田づくり市民委員会の開催結果について（速報）、を事務局から説明をお願いします。
企画係長	100 人委員会ということで 5 月 12 日、16 日に行いました。 今日はその実施の速報として、委託業者の株式会社シマネプロモーション代表の三浦さんから、概要を報告して頂きますので、よろしくお願いします。
シマネプロモーション社長	皆さんこんにちは。只今ご紹介頂きました、株式会社シマネプロモーションの三浦と申します。 今回の 100 人委員会は、新聞記事にも出ましたので皆さんご存知かと思えますけれど、5 月 12 日、16 日と 2 回で開催させて頂きました。その速報ということで、最終的なまとめはできておりませんが、ご報告させて頂きます。 まず 100 人委員会の位置付けですが、総合振興計画のビジョン、計画作りに市民の皆さんからの意見を反映するための意見交換の場として設けました。 問いかけ方としては、「元気な浜田づくり」のために皆さんの知恵をお貸しください、というスタンスで 2 回ほど開催させて頂きました。 これから「総合振興計画」と「総合戦略」を作られるにあたって、意見の聴

取の仕方、あるいは議論のステージは様々あると思いますが、図を使って 100 人委員会の皆様の意見、あるいは行政的な観点から、あるいはそれをチェックする市議会というところから、こういう計画を皆様で作っていきますよと示しております。

開催回数は、最初に我々が受託させて頂く時から 2 回と日程が決まっておりましたので、その中でできることを考えて提案させて頂きました。

2 回で行うため、どういうふうに考えていくかというプロセスを提案して、問題からではなく、目指すところから考えてみましょうということで、「まず皆さんの住みたいまちはどういうまちですか」と問いかけ、そのために「必要なこと、やるべきこと、自分ができること」というふうに、考え方は大きなところから小さくしていくのですが、行動の順番としてはできるところからあげて積み重ねていって、住みたい浜田市を作りましょう、ということをご共有しています。

1 回目は「住みたい浜田市とはどういうまちですか」ということを聞き、2 回目は「その実現のために必要なことやるべきことはどこですか」ということで具体的なことを話しました。

1 回目は 2 時間という非常に短い時間でしたけれども、ワークショップは実質 90 分でやっております。

テーマは「こんな浜田市に住みたい」、「浜田市がどんなまちだったらあなたは住み続けたいくなりますか」、「人に自慢したくなりますか」、「住み続けられますか」ということでやりました。

申込者は 110 名で、当日は大変多くの方（98 名）が参加されました。6 分野ということでしたけれども、1 回目は分野にこだわらず、グループに分かれて頂き、皆さんに「浜田市はどんなまちですか」と声かけをしております。

手法としては、付箋に意見を出して模造紙に貼り付けていく形でやり、今度はメンバーを変えて同じテーマで質問しました。そうすると、他の方の意見を聞きながら自分は思うか、意見の派生・アイディアの派生が出てきますので、そうした形でアイディアや話を膨らましていくという手法でやりました。

その結果は、我々の方で持って帰り、14 テーブルで貼られた全ての付箋を一度分解し、6 分野それぞれに同じ意見を集約して更にグルーピングしたというプロセスを経て、2 回目（5 月 16 日）の、「住みたい浜田づくりのために何が必要ですか」、という具体案を話し合う会を迎えました。

2 回目は 4 時間ありましたので、ワークの時間が 100 分になっていますが、14 グループそれぞれ分野ごとに話し合ってもらっています。

1 回目のワークショップでは 626 の付箋、つまり 626 の意見が出ました。これを我々の方で分解し、集約した代表的なものが資料 1 のまとめにあるように、「集まる場があったらいいね」、「子どもや若者がたくさんいたらいいね」、「商業や農業が元気だったらいいね」、という形で意見をまとめていきました。

ここから共通項を導き出して、この項目では皆はこう思っていますよね、ということをご我々の方から投げかけています。

それが、「永く続く残る浜田を作ること」です。浜田がなくなってもいい、という人は誰一人おっしゃいませんでした。浜田を残していくということは皆一緒で、これは根底にあります。これを作る上で欠かせない要素は何かということもワークショップの意見の中から出てきました。

それがお示しする“3つの要素”です。1つ目に「地域の独自性、浜田らしさ

がありますか」。2つ目は、「ちゃんと実現できるか、続けていけるか」。3つ目に、「その施策、そのアクションを起こした時に自分や人が動いているところを具体的に想像できますか、共感性」。この3つがないとだめですよ、ということが1回目のワークショップから集約できました。そこから具体的にアクションを起こしていく時に、この要素がないと駄目だということを2回目の冒頭に共有して、2回目の議論を始めました。

この浜田づくりに欠かせない3つの要素が今ご説明した3ポイントです。その3ポイントを踏まえて、6分野についてそれぞれ考えていきました。必要なやるべきことを2回目に話し合いました。これ（この映像）が1回目に持ち帰った付箋の状況です。そこから各6分野に我々の方で分解し分けました。その中で、似たような意見をもう一度グルーピングして、我々の方でタイトルを付けさせて頂きました。これが「小テーマ」となっています。

具体的にお話すると、「健康福祉」の分野に振り分けた意見は75枚で、「在宅医療が凄まじい」、「医療センターでは医師の確保が必要」といった意見が75枚出てきました。これを我々の方で意見を割り振って、一番多いところだと、例えば16枚ありますが、「精神的な健康づくり」、「肉体的な健康づくりだけでなく精神的に健康にならなければだめ」といった似た意見が16枚あり、こういう見出しを我々の方で割り振っていきました。数が少ない「オーガニックといった考え方の推進」など、どこにも当てはまらないものは、切り捨てず1つで残しています。こういうふうにグルーピングしたことについて、2回目の話し合いのネタにしてくださいと。だけど1回目の意見では出ていないものも勿論あるので、それについては新しい項目を作って議論してもいいですよ、といった自由性は提供しています。

「教育文化」では、95枚の意見が出されました。浜田の歴史を大事にしましょうとか、神楽を小さい子供から大人まで楽しむことが大事であるとか、それをグルーピングしています。「浜田の教育の在り方について考えた方が良い」という意見があり、浜田の教育の在り方という少し大きな見出しを付けました。あとは「独自の文化の存続と保全」といった意見も出ています。食育の推進、それから図書館の活用は2回目の議論で白熱した印象を持っています。

「環境」では、51枚の意見が出され、「まちなかの美化」であるとか、生態系の話、景観の維持、それからエネルギーとか食料自給率アップの話まで出ています。

「産業経済」では、グループを希望された方も多く、意見も138枚と多かったです。「若者の仕事があるまち」、「全国干物祭りの開催」などの意見をまとめています。「雇用の創出」についての意見はたくさんありました。それから「地域性を活かした観光商品の開発、充実」といった交流人口を増やしていこうとか、「企業店舗の誘致を促進すべき」という意見もありました。意外と多かったのが、サービス業ではなく、食事処という特定のサービスに対してもっと多様性があった方がいいといった意見がたくさんありました。

「建設安全」では、ハードの整備や治安などがグループ化され、「美しい景観の維持」といった意見が出ています。これはハード的な側面から見たもので、環境のところでも同じ項目を付けていますが、こういったところから治安の維持や災害対策、バリアフリーの推進、こういった形でまとめています。

それから一番多かったのが、「市民活動・定住」です。当日は「市民活動」と「定住」といったグループで議論して頂きました。

そもそも6つの部門のグループ分けが非常に難しい印象でしたが、特にここは難しいグループでした。「若者の夢をサポートできるような組織が必要」とか、「協力し合える自立したまち」とか、こういった市民活動に対する意見とか、呼んでくるための具体的な提案もありました。「市民活動を支援する組織が必要」という意見も多く、「コミュニティやクラブ活動の活性化をやっていきましょう」、「集いの場の設置と活用、集まる場所が欲しい」といった意見が非常に多かったです。しかし、「本当に集まって使うのか」といった意見が一方でありました。また、「定住支援の在り方そのものを考えた方がいい」といった意見が意外に多く、そういったところをまとめています。

このように、2回目は、我々が提供した、先ほど説明した視点を模造紙に付箋で貼って、この視点に対してグループでもう一回意見を出し合う、こういう作業をして頂いて、その後にもたまたま同じような意見をグルーピングして整理するといったプロセスを経て、付箋を貼った模造紙を作っていました。

3つの要素が必要だというお話をしましたが、「地域の独自性があること」、「実現可能であること」、「持続性があること」、この3つの要素が出された意見にあるか確認してくださいということで、赤・青・緑の丸シールを貼ってもらいました。そうすると、各付箋を皆が見直すと、赤しか貼れないとか、緑しか貼れないとか、3つ貼れるとか色々出てきました。その中で基本的に赤青緑が貼られているもの、浜田らしさをどういうふうに出したらいいかわからないけど続けていけたらいいよね、といったもの、皆望んでいるのではないかと思います、そういう意見は各グループの特徴ある意見として発表して頂いています。

お手元にお配りしている「100人委員会まとめ（速報）」という資料があります。模造紙に貼った付箋、皆さんの意見を一度持ち帰り、それをさらに整理し直してまとめたものがこちらの資料になります。

例えば、一枚目に「産業経済」とありまして、最初の「小テーマ」とはくくりの文言が少し変わっています。これは更に出てきた意見の特徴を各項目に付加して言葉を変えたりしています。「浜田を活かした観光商品の開発と充実」、これはそのまま使っていますが、右のところに具体的に出てくる意見をまとめています。

「温泉街の再興」、美又温泉のことだと思いますが、萩や松江まで含んだ周遊できる観光ルートの開発、売れる神楽グッズの開発、このような意見を集めています。それから、「地場産業を活かしたイベント開催」は、カレイの干物の生産が日本一だというデータを出されていた方がいて、全国干物祭りをやったら浜田らしいイベントができるのではないかと。旬の魚を食べる会をずっと続けられている方がいて、もっと大きくしていくべきだ、といった意見をまとめています。

「起業の促進と支援」とありますが、これに関しては非常に意見が多く、挑戦できる場づくりとか、起業したい人の集える場づくりをしようとか、こういった意見をまとめさせていただいています。

次に「市民活動・定住」になります。「特色ある自治会活動の推進」、行政に対してのリクエストですが、「市の職員の方が担当地域を持って意見の吸い上げを積極的にしてくれたらいい」ですとか、「多世代同居の推進」は面白くて、「血縁者以外の集まれるシェアハウスを運営しよう」とか、共同、他世代で住まえる仕組みを作ることによって色んな問題が解消できるだろうと。あと「定住支援そのものの在り方の再検討をすべき」、「企業に支援し、定住者が豊かになる

仕組みをつくろう」、こういった意見がまとめられています。

次に「建設安全」です。市民主体でインフラ管理をきちんとしていこう、ただそこには色んな問題が、例えば草刈りとかエリアによって市民の負担がかなり違うので、そういったところも踏まえてインフラ管理をどうしていくかを考えていきましょうとか、ハードだけ作ってもどう使うかを提案しないと生きていけないよね、といったところで、使いたくなる場づくり（ハード・ソフト）というふうに項目を設けています。

次に「環境」です。ゴミの分別やどう資源化するか、分別方法そのものの見直し等も意見が多かったです。「食料の自給率アップ」、耕作地の貸出とか、地産地消をどう推進していくか、「ライフスタイルの見直し」ということで、自分の消費行動を見直ししようとか、サマータイムを浜田独自で導入しよう等の意見が出ました。

それから「教育・文化」です。非常に熱のこもった意見が多かったと思っています。「食育の推進」は多く、弥栄もそうだと思うのですが、有機というエリア的な特徴を活かした学校給食とか、家庭での地元食材の利用促進だとかもあがっていました。あと「図書館」については、新しい設備をどういうふうに価値を見出していくか、使ってもらえる図書館づくりを今後していくべき、という意見が非常にたくさんありました。「浜田らしい教育の在り方」は、この人口減少時代にどうやって独自性のあるまちの施策を作っていくのかといった時に、帰って来てもらえるまちづくり、帰って来てもらうために彼らに何を伝えるのかという「ふるさと教育」、あるいは「キャリア教育」といった意見が非常に多かったように感じています。

それから「健康・福祉」では、「精神的な健康づくり」、「食生活の推進」だとか、「地域の医療制度の在り方」についての意見も多かったように思います。「健康づくり」では予防医療の促進とか、まちづくりと健康づくりを掛け合わせた施策の開発ということで、「まちの緑化を健康づくりと組み合わせてやっていこう」といった意見も出ていたと思います。

以上、駆け足でお話しましたが、参加者の皆さんが思うところはあると思いますが、あくまで 100 人委員会の 2 回のワークショップで出た意見を集約したもの、ということで報告させていただきます。

それからもう 1 点、「浜田市 100 人委員会アンケート結果一覧」という資料があります。1 回目、2 回目の後に、こちらで用意したアンケートにお答え頂いたものです。

まず、非常に多かったもの、主だったものは下線を引いています。「今回の 100 人委員会に参加して行政任せで今までまちづくりを考えていたけれど、自分が具体的に想像することによって自分でやる意識に変化した気がする」という市民の主体性を即発するような、そういった結果がこのアンケートから非常に伺える、というふうに思っております。

それからワークショップの設計について、「消化不良だった」、「最初はイメージ出来なかったが、予定の 2 回目が終わって思うことは、こんなに重たい内容を 2 回でいいのか」、「今の状況なら皆さん消化不良の方が強く残ったのではないのでしょうか」、「このやり方が浜田らしさと言えるかもわかりません。」という少し皮肉のような意見もありますけども、その消化不良を今後また継続性、100 人委員会のような市民が政策の決定プロセスに関わっていけるような仕組みづくりをした方がいいのではないかという意見が非常に多くありました。

	それから 1 回目のワークを我々が持ち帰って、皆さんにご提案した 3 つの基本方針についての意見を伺っております。「過去行われてきたまちづくりから、これから必要なまちづくりに移っていかなくてはならない中で認識しておかなくてはならないことがシンプルに押さえられていると思う」、という意見も出ました。もちろん、この資料に全部書いてありますが、賛成意見だけではないのでまたご覧になって頂ければと思いますけれども、ほとんどの方には 3 つの基本方針は皆さんから出た意見を我々の方できちんと出したという評価を頂いたのかなと思っています。 また、この話し合いにより、方針が出たところで今後どうしていくかというところですが、「手法についてはもう少し具体的テーマで話し合う機会を作ってほしいです」とか、「100 人委員会の小委員会でも設置して、地域性などを十分把握できるような組織とし、市の現状を十分考慮しながら検討を重ねることが必要と考えます」、と先ほどの繰り返しになりますが、こうした 100 人委員会の継続的な仕組み作りを要望される声が大きかったように思います。 そういったところで、アンケートのご報告とさせていただきます。 駆け足で説明しましたので、ご質問等あるかとは思いますが、まだ少し時間がありますので、ご質問を受けたいと思います。
会長	ありがとうございました。 速報ということでご説明顶きましたが、委員の皆様から、ご質問又はご意見があればお願いします。
玉置委員	私もこの 100 人委員会に参加させて頂き、非常に楽しくて有意義な時間を過ごさせて頂きました。私の心に残ったことを 2 点申し上げたいと思います。 地元で三浦さんのような優秀なコーディネーターを調達できたということが一つとても私は嬉しく思っております。もし間違っていれば訂正して頂きたいのですが、これまでの振興計画を作られる時は、コンサルタントに依頼して下地を作って、その上に書いていったということを少しお聞きしました。もし、そうだとすると、今回はこのような形で市民会議を土台にして積み上げていくというプロセスを私は非常に評価しておりまして、三浦さんとそのスタッフの方に本当にお礼を申し上げたいと思います。 できればこの続きも、実際の計画を策定する段階で項目だけとか文章をまとめる作業もぜひ力を貸して頂きたいと私は思っております。 それから 2 点目、三浦さんたちの作業でとても感心したのは、最初のワークショップだけで 626 の付箋が集まったとおっしゃっていましたが、これをどうやってキーワードに分けるのかと思っていましたが、丁寧な手作業で一つ一つの意見を見極めながら分類していったとおっしゃいました。こういう定量ではなくて、皆が好きなことを書いて集めたような情報を分析する前に、例えばテキストマイニングといったような分析方法もある訳です。そういうソフトを使ってキーワードを取り上げていく方法もあるのですが、こういう方法に頼らないで手動でこのキーワードに分けていったということは、やっぱり一つの意見で、同じように見える意見でもその後ろに隠れている言いたいこと、その意図を微妙にかき分けたいと言われたことがとても印象的でした。このようにして非常に丁寧に丹念な仕事をされたということで、大変私は感心しております。労をねぎらうとともにお礼を申し上げて、今後とも策定の作業を支えて頂けたらいいなと思いました。

会長	100 人委員会で出たこの意見を総合振興計画の中でどのように反映させていくか、方法について事務局からご説明頂けますでしょうか。
企画係長	今回、色んな意見を出して頂きました。シマネプロモーションさんのお力を借りて、大きく 7 つの分野に分けて頂いて、具体的な取り組みについて意見を速報としてまとめてもらいました。 この結果は、今から基本構想、基本計画を作るための骨子案として提示させて頂き、次回以降で審議会の皆さんにもご意見を頂きながら練りあげていきたいと考えております。 もう少し説明しますと、基本構想を 7 つの分野にするかを執行部で検討させて頂き、次回提案させて頂こうと思っております。あわせて基本計画の分野別計画のところは、今後、審議会委員の皆さんのご意見を頂きながら練り上げていきたいと考えております。
来原委員	先ほど玉置さんもおっしゃいましたが、市民の意見を十分に反映したものと理解できますが、これは今後公開される資料なのでしょうか。
企画係長	公開させて頂こうと思っております。今日の会議自体が公開ですし、最終的な報告書も公開ということで次回になろうかと思いますが、委員の皆さんに公開するとともに、ホームページでも公開させて頂こうと思っております。あわせて 100 人委員会の様子もホームページにアップしたいと思っております。
花田委員	今回の 100 人委員会では年齢制限があったと思います。20 歳以上ということで大人の意見を聞く会だったと思うのですが、これから定住ということになると、例えば高校 3 年生で進学して浜田を離れていく子が全国で活躍してくれるのはいいのですが、ぜひ帰ってきて浜田をもっと盛り上げていっていかれたらと思うので、そういう面では出て行く前の子もたちの意見を聞くことをしたいと私は思っているのですが、考えがあれば教えて頂けたらと思います。
地域プロジェクト推進室長	資料 5 の後ろに総合振興計画等への市民意見反映のイメージという図があります。今回、100 人委員会でまとめた意見も当然審議会に諮りながら振興計画等に反映していきますが、一方でご質問にありましたように、中学・高校・大学生に対してもアンケートやヒアリングという形で意見を吸い上げていくという予定にしております。対象者等については、これから検討を深める必要がありますが、今のところは中学校・高校、県立大学の学生さん、あるいは地元の方だけでなく、地元で縁があって進学をされている方がそこで身に付けた技術等を浜田で活かしてもらうということも定住・人口増に繋がると考えておりますので、そうした皆さんの意見を吸い上げるということを別途させて頂こうと思っております。それから右側にありますように、関係団体にもヒアリングを行うということで、審議会にお出掛け頂いている皆さんは、それぞれの団体の意見をこの場で提示して頂けたらと思います。そうでない団体さんには事務局の方でヒアリングを行いまして、その意見も審議会に提供させて頂こうと考えております。
佐々木大輔委員	私は正直この結果が物足りないのですが、10 年後の計画を作るといったところで 10 年後にこうなってほしいというのが資料 1 ということでいいのでしょうか。そうなった時、数値目標に近いような話は出たりしたのでしょうか。
シマネプロモーション社長	意見の中には個別に出ているものもあったと記憶しておりますが、なかなか参加者の方々に何年後に対する数値目標をという問いかけは、我々としては少し設問としてはレベルが高いかなというところもあり、小テーマを設定する時

	にこれくらいで留めたというところもあります。 ただ、ご指摘のように、結果を途中経過としてまとめさせて頂いているところでは、数値目標的なところはもちろん提示できておりませんので、そのように捉えられる場合もあるかなとは思いますが。
佐々木大輔 委員	例えば、この 100 人委員会は、もう 1 回開催するというのは難しいのでしょうか。要は数値目標をもって意見を言いたい市民の方が絶対いたと思っていて、それを発信できる場がここにはなかったという印象を持ちました。そのため、意見を持っている人と、持っていない人というと思うのですが、ある人からはなるべく吸い上げてあげた方がいいと思いますが、3 回目の開催というのはそんなに難しい話でしょうか。
企画係長	3 回目の開催は予定しておりません。難しいかという、開催するためには制度設計をもう一度練り直さなければいけないということが出てまいります。そのため、そのあたりは検討させて頂こうとは思っておりますが、実は今日報告頂いた内容は、先週のところで至急取りまとめて頂いて今日速報とさせて頂きましたので、私たちも昨日見させて頂いたという実態です。今後については検討させて頂きたいと思っております。
地域政策部長	今の数値の目標設定ですが、この 100 人委員会というのは、市民の皆さんの個人の意見を自由に言って頂いて、それをまとめて頂いております。 最終的に総合振興計画の市民代表として意見を頂くのは、審議会の皆さんだと理解しておりますので、ぜひ審議会委員の皆さんに数値目標等を出して頂き、それを参考にしたいと思っております。
会長	それでは、本日は速報ということですので、最終報告が出ましたら、後日ご報告頂きます。 それでは、ここで 5 分間の休憩を取らせて頂きます。
(2) 協議項目について	
会長	それでは再開します。 続きまして、(2) 協議項目について、意見交換に移ろうと思いますが、まずは、事務局から説明をお願いします。
企画係長	資料 2 をご覧頂きたいと思えます。この資料 2 のタイトルは「浜田市総合振興計画策定に係る審議会委員の意見書」としており、後日、ご提出をお願いしたいと思っております。 この 7 項目を協議項目としてご提案させて頂いて、この場でもご意見を賜りたいと思えます。 それでは、「1 計画の名称について」ということで 3 案を挙げております。この名称案については、事務局案を改めて提示をさせて頂きたいと思えます。ご意見がありましたら、ご記入あるいは後ほどご意見を頂きたいと思えます。 それから「2 総合振興計画に掲げる将来像について」ということで、キャッチフレーズですが、現在の計画は「青い海・緑の大地、人が輝き文化のかるまち」というキャッチフレーズになっております。イコール将来像ということになっており、ここを先ほどの 100 人委員会でも色々な意見を頂き、キーワードも頂いたと認識しておりますので、100 人委員会や審議会委員の皆さんからのご意見を踏まえて、将来像というものを考えたいと思っております。あわせて事務局としましても、案を検討しているところでございます。後日こちらの案を提示させて頂きながら、次回以降で決定できればと思っております。

	それから「3 総合振興計画の構成について」ということで、資料 3 をご覧頂きたいと思います。左側は現行計画の構成です。右側が新たに作る総合振興計画の構成案ですが、現在でのたたき台ということでご確認頂きたいと思います。 「基本構想」では浜田市の将来の姿ということの基本目標、基本指標、特に人口の目標値など、10 年後に目指す数値を掲げたいと思っております。 2 番の基本方針としては、先ほどシマネプロモーションさんの説明にもありましたように、「地域の持続性」、「実現の可能性・持続性」、「具体的に想像できること」、という 3 項目を基本的な方針として掲げる案を考えております。 それから前期基本計画では、2 点目の「まちづくりの展開」で「2 主要プロジェクト」としてしております。特に「人口減少対策」の部分をもどのような施策や取組をしていくかを示し、あわせて「行財政改革」、財政面においても効率的な運営ができるよう二面性で進めていくことを掲載したいと思っております。人口減少対策のところは、この部分から主な取り組みを総合戦略に抽出することになるかと思っております。 それから「部門別計画」です。こちらには 6 項目ということを書いておりますが、100 人委員会の内容も踏まえまして、7 項目にするのかどうかということも検討したいと思っております。 次に「4 自治区別の計画」としてしております。各自治区の主な取り組みについてのページを作りたいと思っております。ただし、項目の内容、浜田自治区の取扱いについては、今後、要検討としております。 それから最後、「効率的・計画的な行財政運営の推進」です。前回は中期財政計画のところも説明し、今後は非常に厳しい状況になることが予想されますので、それらも踏まえた計画にしたいと考えております。 それでは、資料 2 に戻って頂きます。協議項目の「4 総合振興計画の進捗管理方法について」ということで、進捗管理を今後どのようにしていくか、ということを検討するということが必要かと思えます。 それから「5 目標・指標値について」ですが、人口目標などを掲げたいと思っております。こちらは前回お知らせしましたが、総合戦略の中でどのように人口推計するかが必要になりますので後ほど説明いたします。 それから裏面の「6 施策・事業について」ということで、今日、委員の皆さんから時間の許す範囲でご意見を頂けたらと思っております。皆さんのお勤めの分野、個人的に日頃から思っていることを意見交換していただき、またお持ち帰り頂まして、この書面で後日ご提出頂きたいと思っております。 それから「7 その他」では、計画書の冊子を作りますので、そのデザインや計画書の活用方法についてのアイディアなどをご提案頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 なお、この意見書については、6 月 5 日(金)までのところで、皆さんの負担にならない範囲でご提出頂きたいと思っております。この書面に直接ご記入頂いても結構ですし、メール、FAX で送って頂いても結構ですので、よろしくお願いいたします。
地域プロジェクト推進室長	それでは、先ほどの「5 目標・指標値について」、参考までに資料 4 を用意しましたのでご説明させていただきます。 前回の審議会でもここにある No. ①～No. ③のグラフ、これはご説明させて頂いております。 ①は、国が示したこのまま人口減少が進むシミュレーションに、浜田市を当

	てはめた場合で、2060 年には 3 万人を少し切るということで前回ご説明させて頂いております。 ②は、それを食い止めるために、国では出生率 2.1 という数値を目標にしようということを示しており、仮に国と同じ水準で進むと、浜田市の人口は 2060 年には 3 万 3 千人ということでございます。 ③の場合は、②と違うのは出生率が 2.1 で同じですが、国の社人研というのは、浜田の場合は人口が流出の方が大きいのでマイナスということで想定していますが、これが仮に移動がゼロになった場合、その場合は②に比べて人口がかなり増えて 4 万 1 千人になります。ここまでは前回ご説明させて頂きました。 ④からが今回初めてご説明するものです。 国の出生率 2.1 というのは、現在の出生率が大体 1.4 前後ですから、浜田市はそれより常に 0.2 高いです。したがって、国が 2.1 を目指すのであれば、浜田はプラス 0.2 で 2.3 を目指すのが本来ではないかということで、仮に 2.3 で目指した時にどうなるか、これを転出がある場合と、転出はゼロになるという場合で④と⑤で示させて頂いています。 ⑥については、将来的に出生率が 2.1 になっても人口減少が留まるまで、効果が出るまでは 30 年くらいかかると言われています。ただ 2060 年までの推定なので、せめて 2060 年には人口減少を止めたい。そのために出生率がどのくらいの目処になるといいかというと、1 人あたり 2.8 になります。 それから、前回、佐々木大輔委員からご質問があったと思いますが、「プラスに転じる場合」ということで、これは口頭で説明しますが、今の人口が約 5 万 7 千人、一旦減った人口を 2060 年に戻すには、出生率は 1 人あたり 3 人の子どもを産んで頂かないと厳しいということです。情報としてはこういったことを今日ご説明させて頂きまして、浜田市の総合振興計画あるいは総合戦略の中でどのあたりを目標にするかは色々と意見を頂き参考にしたいと思います。
会長	只今、説明頂きましたが、委員の皆様から、ご質問又はご意見があればお願いします。 (質疑なし) それでは、意見交換ということで、項目ごとに進めさせていただきたいと思います。 まず「総合振興計画の名称について」ということで、従来の名称にする案と他の案ということですが、このことについて委員の皆様からご意見がございしますか。 (意見なし) それでは、後日事務局から改めてご提案を頂き、そこで審議させて頂ければと思います。 2 番目に「総合振興計画に掲げる将来像（キャッチフレーズ）について」ということですが、後日、事務局案を提示予定となっておりますが、この段階でこういうアイディアがある、こういう方向性でいってほしいということがありましたら、ぜひ委員の皆様からご発言頂ければと思いますがいかがでしょうか。
佐々木玲慈委員	先ほどの 100 人委員会の説明の中で、浜田に住み続けたいとなるとかありましたが、ここにはやはり「浜田が住みたいまち」といったような分かりやすいキャッチフレーズであった方がいいのではないかと思います。
会長	その他にご意見はいかがでしょうか。

木村委員	全体の話ですが、6月5日(金)までに意見書を提出するといった説明を頂きましたが、この意見を求めるやり方については、どういう方向でいく考えなのでしょうか。前回は説明頂きましたが、策定方針の資料を頂きました。その中に今日も先ほど少しありましたが、審議会委員はどこかの団体に所属して、そこから選出した委員になっておりまして、意見を聴取する団体はその部分は外すことになっています。 そうすると、私は三隅の地域協議会15人を代表して意見を言うということになれば、ここで私が言う意見は個人の意見です。だけど、それをまとめた意見を発表しなければいけないということになる。私としては、せめて策定フローの中で地域協議会は市民の意見を聞く場として非常に大きな要素になっている訳で、やはり団体として聴取してほしいという思いがあります。そういったこともあると思うのですが、こういう持ち帰って意見を項目ごとに述べていくというのは、この審議会でこれから全体として、そのような方法によって進めていこうとしているのかどうかをお聞きしたいと思います。 それから、資料3で構成の話をして頂きました。新しい10年の総合振興計画を作る訳ですから、現行の計画をどういうふうに評価しているのかということが序章のところにいると思います。そのことを踏まえれば、自ずと総合振興計画の構成なりが出てくると思いますので、その評価を先にすべきではないかと思います。 この2点についてお聞かせいただければと思います。
会長	事務局のお考えをお聞かせください。
地域プロジェクト推進室長	意見をこの場で交わすためには、やはり団体を代表して出て頂いているからには、そちらの皆さんの意見も吸い上げられたいと思いますので、基本的に時間、期日を定めて、こんなことをいつまでに出して頂けませんかというような意見聴取をさせて頂きたいと思っています。 ただ、地域協議会の話がありましたが、これはかなり広くありますし、それをまた持ち帰ってというのなかなか厳しいと思いますので、地域協議会については別途意見を聞きに出かけていくといったことで対応させて頂きたいと思っています。
企画係長	2点目にご質問頂きました評価のことですが、おっしゃるように現在の計画の評価を踏まえて次の計画を作るということは大事なことで思っております。現在の計画の評価は、平成26年度までの評価となりますが、「代表的な目標」として69項目を掲げており、今26年度末の状況を集約中ですので、近々公表したいと思っております。次回あたりで、皆さんにご報告できるかと思っております。そういった数値目標での評価ということになりますが、それをもって皆さんに公表し、次の計画に反映できるような形を取りたいと思っております。 今おっしゃられたような次の計画書の中にこれまでの評価をどういうふうに表現できるかは検討させて頂きたいと思います。
木村委員	お答え頂きましたので、それなりに理解しておくことにさせて頂きませんが、例えば資料3の「まちづくりの展開」というところで、新しいところに「人口減少対策」と「行財政改革」とあります。先ほども中期財政計画という大きな指標を示していると思うのですが、計画にはこれらの整合性がある訳です。ですが、今ある中期財政計画はどちらかと言えば現状から見れば、少し手

	直ししないと生きてこないと考えられる部分が大きい訳です。出されている前提としているものが変わってきている訳ですから、そのあたりは、合わせて財政計画の新しいものを改定して出されるのかと考えるのですが、どのようにお考えかお聞かせいただきたいと思います。
地域政策部長	中期財政計画は、前回私の方から簡単にご説明させて頂いています。これは毎年ローリングするということで、毎年作っております。従いまして、今の第1次総合振興計画をベースに作っております。少しお話したかもしれませんが、平成25年10月に久保田市長が就任されまして、第1次総合振興計画には載っていない事業も新たに提案されているということで、それを優先した中期財政計画にしておりますので、今回、第2次総合振興計画（仮称）ですが、この計画が出来上がりますと、これを踏まえた中期財政計画に当然修正するという考えでございます。 ただ中期財政計画は、今年6月頃からサマーレビューで300万以上の事業を各部から出してヒアリングし、秋頃には来年度の予算要求作業に入りますが、総合振興計画は12月に議会議決を受けて作ることから、平成29年度からの中期財政計画に反映するという考えでございます。
会長	項目別にとっておりましたが、話題が既に総合振興計画の構成について入っております。将来像、それから総合振興計画の構成について、その他委員の皆様いかがでしょうか。
玉置委員	構成のところで、資料3「まちづくりの展開」の「3部門別計画」には6部門ありますが、実際問題としてかなり紙面をとるところですよ。私も市民委員会に参加しながら非常に思ったところでして、先ほど三浦さんもの報告の中にも現れていましたが、この6つの分け方に対して私は意見があります。 「Ⅰ健康・福祉」、「Ⅱ教育・文化」、「Ⅲ環境」、「Ⅳ経済・産業」とあり、「Ⅴ建設・安全」が何でここに「建設」があるのかが分からなくて、ハードということかもしれませんが、先ほどの報告のまとめにもありましたが、インフラの整備が言いたかったのかなと思うのですが、これは「Ⅲ環境」のところにして、討論では自然環境において話し合いがなされたようですけど、その中に景観というのがありました。景観というのは自然の景観と街中の景観ということが入ってまいりますので、私はⅤを削除して環境の中に「自然環境」と「社会環境」か「生活環境」でもいいですが、そういうように分けて論じた方が合理的ではないかと強く感じました。そうすると景観というのも入ってきて、自然景観とまちの景観も入ってきます。 それから「安全」ですが、これも色々な安全がありますが、現行の計画には「快適で安心して暮らせる、にぎわいのあるまち」とありますが、安心と安全とは違います。安全な環境を作ることによって安心感が出てくるのであって、この安心感については、例えば健康福祉とかそういうことにも安心感というのは大いに関係してきますので、「安全」というのは「防災」とか「インフラ整備」とか、基本的には「Ⅲ環境」に入れていいのではないかと思います。 それと「Ⅵ市民活動・定住」も、先ほどの報告にありましたように、この2つを一緒にするのは無理があるということで、実際の討論は分かれたテーブルでなされて、これは妥当だったと思います。「市民活動」を一つ独立して取り上げるかどうかということはあると思いますが、取り上げるとしても「定住」は切り離れた方がいいと思います。

	定住といいますと、色々な分野が関係していて、産業、職がないといけませんし、環境に魅かれて来られる方もいます。それから伸び伸びした教育環境に魅かれて子どもの教育を考えて来られる方もいますし、色々な分野に関わっていて、定住対策とは色々な接点が広いと思いますので、これも独立するか他とかみ合わせるか、構成を再考して頂きたいと思います。
会長	今、提示されている 6 項目は確定という訳ではないかと思いますが、委員の意見を考慮する形で構成を考えて頂けることができるのかどうか、そのあたりを事務局の方からお願いします。
企画係長	貴重なご意見ありがとうございました。 おっしゃる通りだと思っております。100 人委員会の中でもこういう分け方でいいのだろうかという意見を実際に頂いておりまして、この分け方については十分検討させて頂こうと思います。 現行の計画で 6 つに分けたというのも、簡単に言うと、苦肉の策だったというところでありまして、とは言いながら、やはり整合していないところもありますし、定住というのは全般的な分野でもありますので、そういうところは今回しっかり見直したいと思っておりますので、またご提案頂きたいと思います。
地域プロジェクト推進室長	少しだけ捕捉させて頂きます。この振興計画が完成しますと、毎年どのようにするかうまくいっているのかどうか検証も当然していくことになっていきますが、検証する上で、事業別の検証ということになると、大変申し訳ないですが、行政は分野ごとで所管が違うので同じ分野で一つにまとめておいた方が検証をしやすいというところも確かにあります。したがって、先ほど貴重なご意見を頂きましたので、こういう点もありますので、そういうことも踏まえて改めて検討させて頂けたらと思います。
会長	よろしくお願いします。その他よろしいでしょうか。 (質疑なし) 項目を進めさせて頂きまして、「進捗管理方法について」ご意見がある委員の皆様いらっしゃいますでしょうか。
佐々木大輔委員	今の管理方法を知りたいんですが、どういう手法で管理されているのでしょうか。
企画係長	前回計画書をお渡ししたと思いますが、お持ちであればご覧ください。 91 から 93 ページに渡って「代表的な目標一覧」で数値目標を掲げさせてもらっています。先ほども申し上げましたが、分かりにくかったと思いますので、こちらの 69 項目の「代表的な目標」の達成状況を内部評価しております。 この目標設定をクリアしているかを評価した上で、達成できていないというものがあれば、どうすれば達成できるのかを担当課で検討しているというのが現状です。
佐々木大輔委員	評価とか管理というのは、基本的に今は市の中だけでされているということですか。
企画係長	はい。
会長	進捗管理の方法について、次の計画にご意見がありましたら、またご発言頂けたらと思います。目標あるいは指標値についてはいかがでしょうか。 (意見なし) 続いて「施策・事業について」それぞれのお立場で想いがあるかと思うしますので、積極的にご発言頂けたらと思います。

楨岡委員	石央商工会の代表として来ておりますが、100 人委員会であれだけ多くの提起をして頂き、こういうものを参考にしていく上で、少子高齢化の時代に入っておりますので、あらゆる事業を進めていく上で少子化といったあたりを検討して 10 年先の人口推計がこうだから事業計画もこういう形で、これを主でやらないといけないという検討を今からしていくことになると思うところです。 私は商工会の関係で、商工というのは工夫しながら商いをしていく、こういう意味もあるということをつも中でお話をさせて頂いていますが、まずどの項目を、今回の 100 人委員会のすべての項目を取り入れて、これを即実行していくということにはならないです。どのあたりまでをどういう項目の中でいつ頃までに、この項目についてはこういうふうにやりましょう、すべてのこの浜田市内一律に計画して上手くいく項目もあるでしょうし、地域性もありますので地域性を持たせて作業を進めていくことも必要ではないかと思います。 最近、私たちの町内にも非常に空き家が目立ってまいりました。それとともに人の数も減ってきている訳ですが、空き家対策を一つとりましても、空いてはいるが非常に難しい。なぜ難しいかと言いますと、人はいないが荷物がたくさんある、そのあたりの対策はスムーズにはいかない。そういった面でこれからは色々と創意工夫と言いましたが、私ども昨年は青色申告会の行事として今までやったことのなかったような事をやりました。 合併以来 10 年経ちますが、同じ浜田市内に住んでいても自分の地域は分かるが他の地域のことは分からないという方が多いのではないかと思います。 私も恥ずかしながら 9 年目になりますが、やっと地域の方の名前と顔が合ってくるようになってきました。昨年やりましたのは、「うちのまちにも来てみんなさい」というタイトルで募集し、負担金も多少頂き、広島あたりから結構そういったものを求めてかなりの人たちが来られました。最初行きましたのが、お寺で精進料理を頂いたり、それから津川の奥の方ですが、石垣、棚田、石で組まれた素晴らしい管理をされている棚田を見たり、縁側喫茶の家主さんのご厚意で、バス 1 台で行きましたので 26 名くらいだったと思いますが、おむすびやお漬物やお汁粉も出して頂き、色んなことを経験させて頂きました。 それから最後には、梨狩りをして大変楽しく思っただけで帰ったところですが、普段と一番違っていたことは、参加者が普段の会合は男性がほとんどですが、女性の参加者が多く、物のやり方によっては非常に参加して頂いた方にもご好評頂きました。そのあたりが先ほどから言いますように、工夫をして商いを行うということで、これからは全国の様子を見ていましても、やはりマスコミを上手に使って地元を P R すると言いますか、松江城も国宝になりましたが、マスコミや I T の関係で若い人たちが来られるのは反応が速いです。 そういった意味で、この浜田市もマスコミなり新聞も含めて大いに利用して宣伝をしていくことを上手にやればいいのではないかと思います。 100 人委員会の意見をこれだけ見させて頂いて、日頃やっていることもこの中になんかありますが、やってみただけできないということも結構ありました。これから人口が減っていく中で、協力し合わない行政だけではできないですし、地元の力だけではどうにもできないという部分がありますので、お互いが協力し合いながらよろしくお願いしたいと思います。
会長	意義あるマスコミの活用も含めて工夫が必要だという認識、難しいことかもしれないかもしれませんが、優先順位というところもあるかと思います。それから地域性ということも考えていかなければならないということだと思います。

佐々木玲慈 委員	人口のことについてですが、浜田は昔は城下町で、それから軍都、水産都市といったキャッチフレーズがあって人口もそれなりについてきていましたが、将来的な浜田のキャッチフレーズ、住みたくなるまちづくりをこれから考える訳ですが、先ほど資料４で示して頂いた人口移動について示して頂いたものと、別にこれだと減少の数字だけが見えているのですが、前回頂いた資料４「浜田市の概況」の４ページのところには、人口総数と１５歳未満、６５歳以上の人口が書いてあって、先ほど説明があった１人が３人産めば増えるであるとか、２．３とかいう数字は、この１５歳未満の数字がどんどん減っていく一方で、ここの人口を増やしていかなければ無理なのではないか、こういう数字の表わし方が必要だと思います。そのうち、どこから人を連れてくるかといった時に、中国５県の人口と全国４位の愛知県の人口がどちらも大体７５０万前後、中国５県で広島をターゲットに色々やっているし、萩・石見空港の東京便も色々やっていますが、浜田の強みと先ほどの１００人委員会の報告にもありましたが、浜田の強みを活かして、どこと連携をして役割分担をした中で浜田に定住してもらう。広島から浜田に来られた方、Ｉターンの方に浜田のことを聞きますと、別に住みにくくはないよと。そんなに不便ではないよと。病院もあるし、コンビニもあるし、学校もそれなりにあるし、子育てにもいい、ただ働く場所がないと言われます。働く場所がないと言いますが、広島に出てしっかり働いて通勤通学を便利にさえしてくれれば、家族が住むには浜田は環境が悪くないということであれば、今後どういうふうに人口増加のターゲットをどこに持っていくかということを、若い人にシンプルに示していけたらいいのではないかと思います。 それについては、この資料４の数字にもありますが、もっと１５歳未満の人口がこれくらいで６５歳以上の人口がこれくらいで、というふうに将来に向かって分かりやすい表し方を我々市民に一目瞭然に分かるように示して頂ければと思います。 今回、地元小学校の新１年生の入学が５人しかなく、昔は大規模校と言われていた所がそういう状況になったということはどうなのだろうかと。 人口のことを調べてみたら、１９２０年に島根県の人口が７１万人で、２０１０年の人口も７１万人。途中で８０万人、９０万人と増えた時はありましたが、１９２０年の日本の総人口が５千５００万の時に島根県の人口が７１万人。２０１０年で日本の総人口が１億２，８００万人の時に島根県の人口は７１万人。だけど石見が減って出雲が増えたからという言われ方もありますが、あと同じ７１万人でも年齢の構成比が全然違い、出生率が維持できないということだろうと思うので、その若い人をターゲットにしたまちづくりをしていくのか、若い人に住んでもらうためには古民家の改装とかもあります、低価格の土地付きの住宅を建てたものを供給して、浜田に行けば安くて土地付きの家に住めるぞと、住環境も悪くないぞという情報を流していく。働く場所としての浜田市の開発と住む場所としての開発と両方やっていくのか、住むところに特化して住むための環境・整備を整えて、働くところまでの時間的な距離を縮めていくようなインフラの整備に力を入れていくことが必要です。 分かりやすい形での計画を立てられたら我々市民と一緒に協働の形がとれるのではないかと思います。 人口の数値が色々出ていましたので、ぜひまた色々提供して頂けたらと思います。
---------------------	--

地域プロジェクト推進室長	先ほどの人口の件については、おそらく年代別の状況やピラミッドの様子が分かれば、あるいは転入の状況が分かれば政策も考えやすいというご指摘だと思いますので、次回そのような資料を提示させて頂きたいと思います。
会長	その他いかがでしょうか。
村井委員	Iターン、Uターンということが盛んに叫ばれますが、やはり今浜田で生活している浜田の高校を出た子どもたちが浜田に住めるまちを作ってほしいと思います。浜田の高校を出てよそこに働きに行くのではなくて、浜田で家庭を持って子どもを育てていけるようなまちづくり。長男には家があります。土地も財産もあります。二男は自分で稼いで家を建てなければいけません。そういう人たちはどうしても都会に出てしまう。新聞にもそういう欄が載っていましたが、やはりそういう二男、三男が居付けるまちを浜田に作ってほしいと思います。 そういう人たちを優遇してあげる、残った人たちの意見も聞いて、Iターン・Uターンも確かに人口を増やすためには素晴らしいことだと思います。でも流出を防ぐのが一番浜田にとっては大事なのではないかと思います。
会長	浜田に生まれ育った人たちが住み続けられるというまちづくりは重要な観点かと思います。ぜひ反映していければと思います。 その他いかがでしょうか。
玉置委員	これまでの数人の方の意見に感銘して思いましたことは、最近、浜田市では子どもさんがおられるひとり親家庭のために、介護職に就くということを条件に移住を歓迎しますという施策を出しておられて、テレビで拝見しましたが、非常に反響が多くて3名の定員を5名に変更しようかという話が出ているくらい非常に反響が多かったということを知りました。 私自身、これを最初に聞いた時に非常にユニークなアイデアだなと思っておりましたが、非常に反響が多かったということは需要があり希望者が多いということです。こういった施策をもっと出して頂きたい。 浜田がこういうユニークな施策をやっているということで、非常に浜田の知名度も上がりますし、そういうユニークなまちだと皆に知ってもらい、やる気のある方々が来て頂けるということは非常に結構なことだと思います。 それと、先ほど人口の表について説明頂きましたが、これは単に自然と一家庭が3名増えれば、子どもを育てれば、こういうシミュレーションになりますよということですが、問題となっていますIターン者の目標値を設定するというのも総合して目標値を出されるのでしょうか。
地域プロジェクト推進室長	総合振興計画は大きな計画ですが、特に人口の減少問題については「ひと・まち・しごと創生」の総合戦略の中で、直近5年間という目の前に迫った危機をどうするかというものを創り上げていきますので、そういう中で整理をする必要があると思っています。 この総合戦略については、事業ごとに目標値を定める必要がありますので、当然その事業ごとに雇用者をどのくらい増やしていくとか、それから出生率をどのくらいにするとかは、それぞれに設定していきます。 ただ難しいのは、人口増には自然増とか社会増を含めて要因が色々あるので、一つの事業がすべてに簡単に数値でこう変わりますとか言えないものもありますから、ある程度このくらいの人口を確保したいという目標を立てて、それを実現するための施策をいくつか考える中で個別に指標を定めて、それを実施していく、そういうふうな流れになると思います。

西井委員	日頃から心配していることがあるのですが、100 人委員会にあれだけたくさんの方が出られたから心配ないのかなと思ったりもしますが、私の住んでいる地域でも自治会がありません。それで行政連絡員の方が自治会長さんのようなことをしなければなりません。そうすると一年一年変わられます。地域の中のがっちりした繋がりというものが確かにあるのかどうか、ということをお心配します。 たくさんの方に I ターンしてもらっていいですが、来られて地域に住まれて困った時に誰に相談するのか、どの方が相談にのってくださるのか、というような地域ごとのリーダーのような人がいらっしゃるのだろうか、と私の地域では思いました。 今なんとなく皆さんが自分のことで精いっぱい、果たして人の世話が出来るのだろうか、色々な事業を始めてもそういうことが出来るのだろうかということが私の心配なことです。 私はたまたまですが、子どもと接する仕事をしておりまして、子どもの中にも、もう 6 年生だから下の子どもを引っ張って行ってほしいと思っても、リーダーになる子はいません。自分のことだけです。 6 年生が 3 年生と同じようなことでどうするの、と思うのですが、そういう状態を見ていると、もっと基本的なところで考えることがあるのではないかと、そんな心配をしております。
地域政策部長	ご意見ありがとうございます。 今、まちづくり、地域づくりが大変重要な課題となっております。 自治区制度ということを議論しており、これは周辺部を寂れさせないということで整備しているわけですが、逆に周辺部、今日もお出かけ頂いておりますが、金城・旭・弥栄・三隅の地区では、まちづくり、地域づくりがかなり進んでおります。旧浜田、市街地部分の、今委員がおっしゃたように、地域の連携が出来ていない、転入・転出の若い方がおられて昔のような地縁が中々ないということもあると思います。ただ、だからといってまちづくりをしないということにはならないと思います。都会では独居高齢者の方が、例えば亡くなられても何日間も分からなかったということも起こっていますし、地震や火災、被災が起こった時に高齢者の方とか要援護者の方をどうするかという大きな問題がありますので、旧浜田の市街地エリアにもまちづくりを進めていくということ、市長は特にこのことを 4～5 年の間に力を入れたいと申しております。 具体的にどんなことからやっていくかということは、お祭りとかのイベントに集まって頂くことや、あとは防災訓練とか子育てとか、それぞれの地域で一番身近に皆さんが感じて頂けることをまず見つけ出して、リーダーの方を見つけて少しずつ集まって頂くような、これから仕掛けをしていきながら、地域づくりをしていくということで、今年 4 月からまちづくり推進課を設置して、それに取り組んでいきたいと思っております。 先ほど玉置委員からありましたシングルペアレントの事業も大変話題になっておりまして、一昨日私も厚生労働省に行ってまいりました。全国的に話題になっていますので、これがただ話題だけでなく、本当に来て頂いた方にここに住んで頂いて、浜田に来てよかったと思って頂くためにはそのフォローを地域の方とうまく生活して頂く態勢を作らなくてははいけない。そういうことで、まちづくりは本当に大事だと思っております。ぜひまたご意見を頂きたいと思っております。

会長	まちづくりということで今の発言を聞いていますと、自治区別計画とございますが、やはり浜田でもこれが必要なのではないかと私は印象を受けました。 他に委員の皆様いかがでしょうか。
来原委員	浜田金融会を代表してきております。 今回の地方版「総合戦略」の策定プロセスの中で、今までの行政だけでなく、色々な機関、金融機関も入れて、そういう声も積極的に活用したらどうかということで今回呼んで頂いたと思っています。 それから、数値目標についてもK P I 目標があり、そこをはっきり出しましょうと、合わせてそのチェックについてはP D C A サイクルでやりましょうと。たぶんこういうことは絶えず我々は仕事をしている中で使っている手法なので、そういうことで今回呼んで頂いたのかなというふうに思っています。 その中で、皆さんのお話を聞いていまして、キーワードが数値目標としてやっていくには「人口」ということが一番のキーワードになるのかなと思っています。 その人口というのが、今までのような単純な出生率だけで計っているということであれば、産むのを増やすというのは中々個人の問題もあるので、難しい問題だと思っています。 その中でやはり経済的な面から見ると、要は浜田にお金が落ちるとか、経済が潤うとか、そういう観点からも考えていかななくてはならないのかなと思っています。 例えば、短期的に見て、浜田にお金を落として交流人口を増やして、ということになると観光であるとか、人がどんどん入ってきて外貨が落ちて短期的に雇用が図られるでしょうから、産業があれば人も生活が出来て、出生率や定住する方が増えるかなと思います。 また、例えば今浜田市でやっている企業立地、当然雇用が増えるということになれば、そこでまた人口が減ることを止める要因の一つにも、短期的にですが、なってくると思います。 長期的な部分としては、やはり地域の重点産業を育てていくということと、もう一つは重点企業、要は外貨を稼いでくる企業はしっかり稼いでくる、外貨を稼いで来れば中での商業活動やいろんなものが潤ってきます。 外貨を落とす企業を重点企業として育てていくということもあるのですが、浜田は益田と違って、外に向いて出る企業というより、中でずっと事業をしていて育ってきた企業が多く、なぜかと考えますと、昭和 30 年代から 40 年代にかけて魚が大変獲れ、浜田にお金が落ちました。そこで浜田に資本が落ちたので、浜田はお金があったため、その資本があることで、今度は商業を含めた産業が発展してきました。 それがずっとあればよかったのですが、今度は魚が獲れなくなって、商業が廃れていった。気が付いたら商店街が繁盛しなくなった。じゃあどうしよう、というのが今だと思います。 何で魚が獲れた時に潤ったかというと、1 次産業でものが入ってきて、浜田にもものが落ちて、魚を利用して加工業が発展して、外貨が入る。要はこの 1 次的なもの、2 次的なもののお金が浜田に落ちてきて潤った。そうならば、例えば今市長が 50 億の魚の水揚げを 100 億にすると、普通に獲っていたらできないと誰もが言われますが、例えば外国の船を入れるとか色々な船を入れることによって浜田港の魚の売り上げが上がる。それから 2 次的に色々なものが発生し

	てくる。こういう産業を育てていけばお金が落ちる。自ずと産業が発展すれば人も来る。 また、例えば農業でどんどん地域の農業の売上が上がってくれば、ここでの雇用が生まれる。林業についても一緒に林業でも雇用が生まれる。 そういう産業施策を短期と長期のビジョンで見えていく中で、10年間では反映できないと思いますけど、総合戦略でそのあたりについてもある程度見解をもっていかないと単純に出生率だけでの人口で判断していくと、中々生きがいとかやりがいだけでは人が減るだけという感覚を持っていますので、そういう見解でこれから発言させていかせて頂きたいと思います。
会長	産業振興のことも大事な視野になってくると思います。 他にどなたかいかがでしょうか。
柿元委員	キャッチフレーズのことで一言言いたいのですが、私も100人委員会に参加させてもらって、あと今日皆さんの意見を聞いていて、現在は「青い海・緑の大地、人が輝き文化のかおるまち」ということですが、青い海は当然きれいですし、緑の大地も浜田市にはありますが、浜田市じゃなくても他の地域でも素晴らしいところはあると思います。キャッチフレーズですが、皆さんの意見を聞く中で思うこと、私が常に思うのは、「地域とともに生きる」とか、「家族とともに育つ」という言葉が入ってもいいのかなと、例えば「市民とともに育つ浜田市」とか、という感覚もいいのかなと思いました。 私はIターン者ですが、浜田市ですごく不思議に思うことは、私は金城町に住んでいるのですが、浜田市なのに浜田市に住んでいない気がするんです。 確かに「自治区制度」はいいことだとは思いますが、何で浜田市に住んでいるのに、と思うことがよくあるので、自治区制度の良いところは残しつつ、浜田市全体でまとまることも、同じベクトルを向くことも必要ではないかと思います。金城町に住んでいても、浜田、三隅、旭、弥栄のことは、すごく他人事のように感じます。自治区制度は自治区制度で残して、浜田市としてのベクトルも強く一体感のある政策もあってもいいのかなと思います。 それと、先ほどの価値観の話もありましたが、浜田市では市街地はどちらかというと都会、金城町とかは田舎というか自然が溢れる、ということで浜田市の中では二面性があるので、定住に関しても浜田市街に呼び込む人、そういう自然を好む人とか、これだけ個人が意見を言える多様な感覚が世の中増えていますので、そういう選択肢も増やした方がいいのかなというふうに思いました。
会長	ありがとうございます。ぜひ参考にしていきたいと思います。 少し時間が押しておりますので、まだまだ議論があるかと思いますが、一旦ここで区切らせてもらいまして、ぜひ意見書の用紙にどしどしご意見をお寄せ頂きますようお願いいたします。
(3) 今後の進め方について	
会長	それでは、先に進めさせていただきまして、(3) 今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。
企画係長	資料5をご覧ください。 「今後の進め方(策定スケジュール案)」ということで、前回策定スケジュールをお示しさせて頂きましたが、それを少し修正させて頂いております。 第3回は6月30日を予定したいと思っておりますが、こちらでは基本構想案をご提案させて頂きたいと思っております。

	また、本日は協議項目ということでご意見を頂いたところですが、次回に向けて意見書用紙で出して頂いたものを集約し、6月30日には意見交換をもう一度やりたいと思っております。 それから7月では、「基本構想案について（協議②）」としておりますが、基本構想案の骨子を概ね固めたいと思っております。あわせて「基本計画案について（協議①）」として頭出しさせて頂きたいと思っております。 8月のところでは、市民アンケート結果の報告というのがありますが、基本計画（案）についてということで骨子を出させて頂きたいと思っております。 審議会の回数ですが、前回6回とお話させて頂きましたが、9月のところで審議会予備日を予定させて頂きたいということで、10月が第6回審議会となっていますが、実質は第7回とさせて頂きたいと思っております。 それと、市民の皆さんから、もう少しご意見を集約したいと思っておりますので、それについては市民意見反映のイメージというものがありますので、説明させて頂きます。
地域プロジェクト推進室長	市民意見反映のイメージについては、先ほど説明させて頂きましたので、色々な方法でご意見を頂戴するということでございます。地域協議会からの意見のすり合わせについては、またやり方を考えて、会長さん、副会長さんと協議させて頂きたいと思っております。 総合戦略については前回もご説明しましたが、総合振興計画は12月を目処に策定いたしますが、総合戦略は前倒しの10月までに決めるということで予定しております。 これは今年度、国の交付金を頂きながら少しでも早く事業を展開するために必要な措置となっておりますので、何らかの審議会でご意見を頂戴する機会があると思いますが、特に総合戦略については、重点的なところを幾つかピックアップをして取りまとめるという方法でさせて頂いたらと思っています。 多くのことを総花的に総合戦略に盛り込むということは厳しいものがありますので、この辺も次回までに少し骨子などもまとめ、ご説明をさせて頂けたらと思いますのでよろしくお願いいたします。
会長	只今、説明いただきましたが、委員の皆様から、ご質問やご意見があればお願いします。 （質疑なし）
3 その他	
(1) 第3回審議会の開催日程について	
会長	続きまして、「6 その他」に移らせていただきます。 (1) 第3回審議会の開催日程について、事務局からあらためてご説明をお願いします。
企画係長	（第3回審議会の開催日時、場所について提案） 開催案 日時 6月30日(火)午後2時～午後5時（3時間） 場所 浜田市役所〔4階〕講堂
会長	只今、次回の日程について、説明いただきました。 よろしければ、次回は、6月30日(火)午後2時から予定させていただきます。
(2) 事務連絡	
会長	続きまして、(2) 事務連絡を事務局からお願いします。
企画係員	（委員報酬等の支払い等について説明）

会長	ご質問はありませんでしょうか。 (特になし) ここで、私からご提案ですが、今日は前回よりは活発に答弁頂いたかと思いますが、中々お互いに十分に議論が尽くせないところがあるかと思いますので、第3回審議会の後に懇親会を設けてはいかがと思いますが、どうでしょうか。 ご賛同頂けましたら、事務局の方で改めて調整して頂ければと思いますが、よろしいでしょうか。 (賛同あり)
企画係長	会長のご提案ということで、懇親会を予定したいと思いますが、もし都合が悪いという方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡頂けたらと思います。 場所については、こちらで調整させて頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか。
会長	そのように、お願いします。 ぜひ多数の方にご参加頂きますよう、よろしくお願いいたします。
◆ 閉会 (午後4時)	
会長	それでは、以上をもちまして、第2回審議회를終了いたします。 お気をつけてお帰りください。 ありがとうございました。

(午後4時閉会、所要時間 2時間)